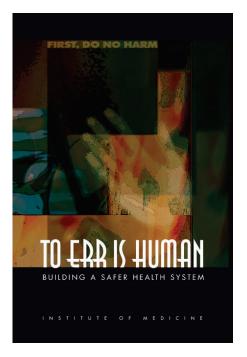
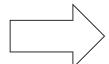
医療情報システム標準化についての考察 ~ 医療の質とモダンアプリケーションとFHIR~

帝京大学 医療情報システム研究センター 澤 智博

1

1999年 約20年前

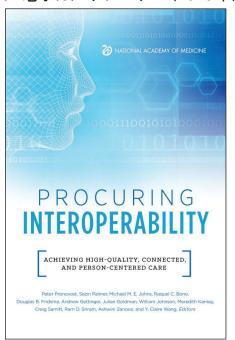




- •医療安全
- 情報システム活用
- ・医療情報システム普及

2018年

米国の病院の96% に電子カルテシステム(2016年)



- ・医療の質
- ・データ利活用
- ・相互運用(人・データ・システム)
- Reduce medical errors and protect patient safety
- Ready and full access to records on patient health, health care, and progress
- Identify and better manage patients' risks to achieve the best outcome possible
- Ensure that patients and families are part of the care team
- Facilitate compliance with relevant rules, regulations, and contractual mandates
- Link to new data exchange partners, (e.g., technology, analytics, and social services)
- Automate data entry and reduce administrative burden
- Improve staff productivity and caregiver/clinician satisfaction
- Reduce cost, variation, and duplicated care
- Streamline relevant administrative workflow, including billing and quality reporting
- Ensure continuous quality improvement and learning

出典: Procuring Interoperability: Achieving High-Quality, Connected, and Person-Centered Care. National Academy of Medicine (December 10, 2018)

相互運用の三つのレベル

•Micro-tier: 診療現場 • Point-of-Care

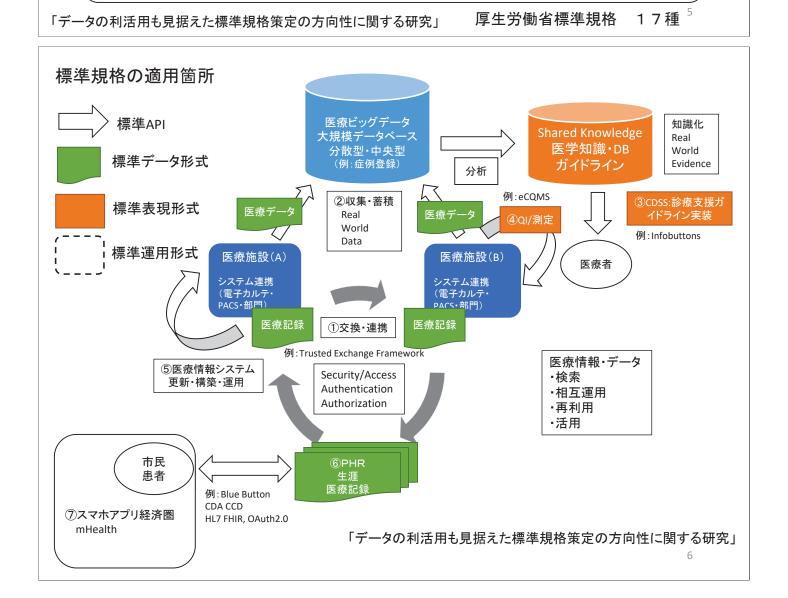
•Meso-tier: 施設内

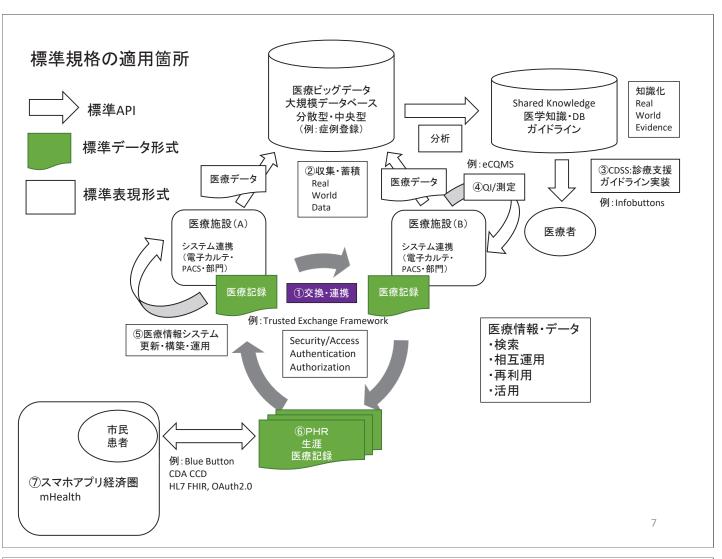
·Macro-tier:施設間·地域·全国

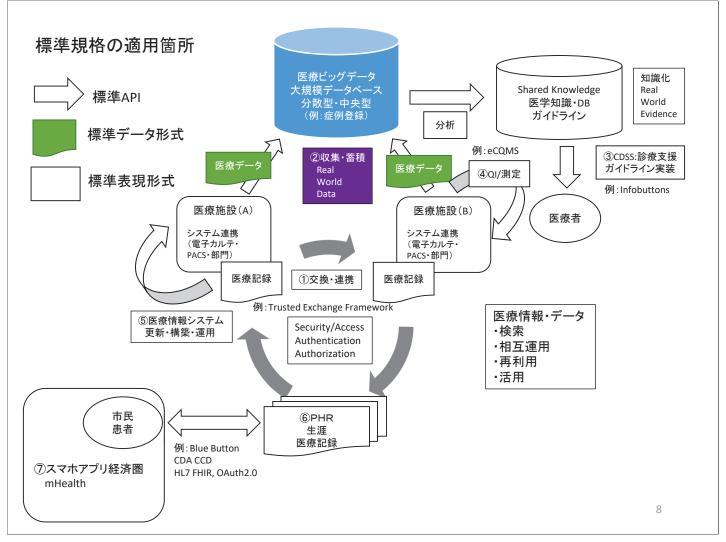
医療機器・センサー・システム 電子カルテ・医療情報システム 標準プロセス・ワークフロー

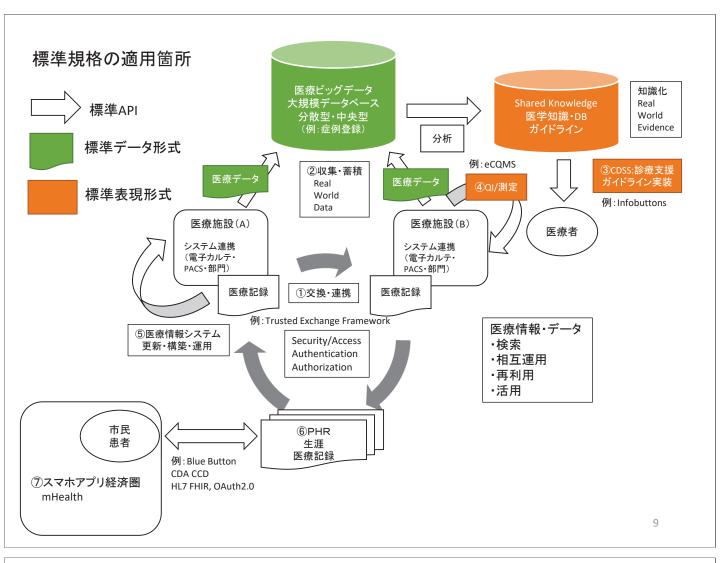
国内の標準規格の現状考察(1) 「標準化」、といっても、用語から操作画面まで多岐にわたる

ワークフロー・ケアプロセス クリニカルパス、患者認証、薬剤照合、輸血照合 ユーザーインターフェース(操作画面:レイアウト・デザイン・カラー) ソフトウエアの挙動(画面遷移・デフォルトフォーカスボタン: Yes・No) モデル・構造 IS013606 診療データ HS026 OMOP Common Data Model SS-MIX2 文書・画像 医療施設間情報連携 生理機能検査 HS010:医療波形 HS007 放射線 患者診療情報提供書 HS009 放射線 HS011 IHE可 搬型医 DICOM 電文・通信 検体検査 放射線 放射線 薬剤 用画像 医療施設間情報連携 HS017 HS016 JAHIS 放射 線データ交 HS025 JAHIS HIS, RIS, JAHIS処方 地域医療情報連携 臨床検査 PACS データ交換 JJ1017指針 換 用語・コード 病名 HS013 検体検査 薬剤 HS024 臨床検査 標準歯科 看護実践 ICD-10 マスタ









0 Welcome to FHIR®

🚧 Clinical Reasoning

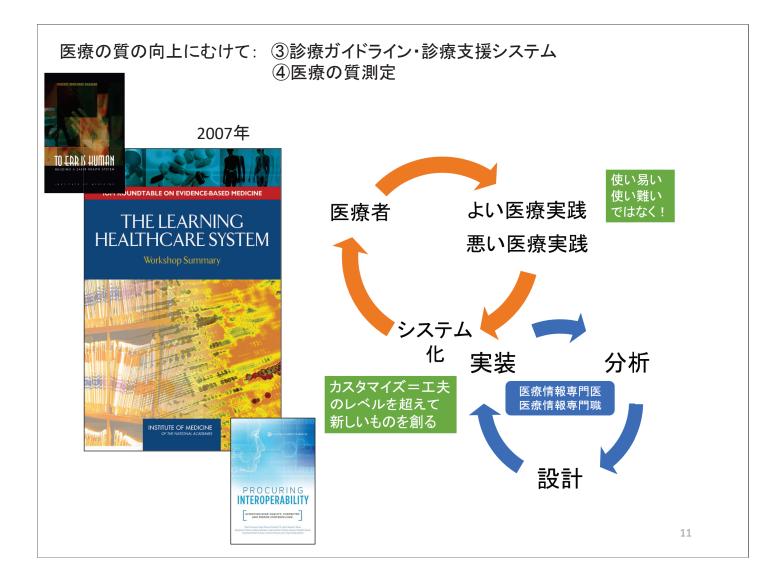
FHIR is a standard for health care data exchange, published by HL7®.

irst time here?

See the executive summary, the developer's introduction, clinical introduction, or architect's introduction, and then the FHIR overview / roadmap & Timelines. See also the open license (and don't miss the full Table of Contents and the Community Credits or you can search this specification).

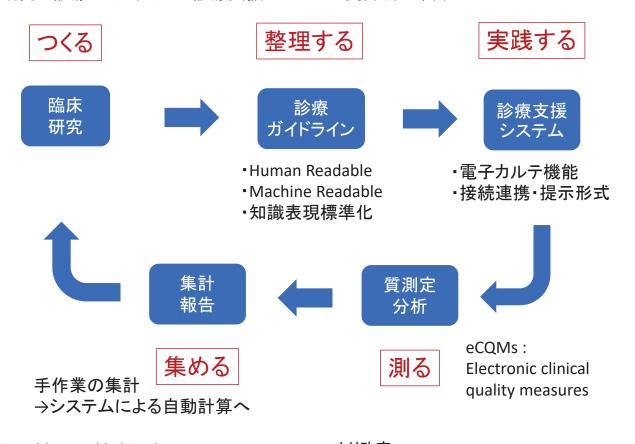


Library, PlanDefinition & GuidanceResponse, Measure/MeasureReport, etc.

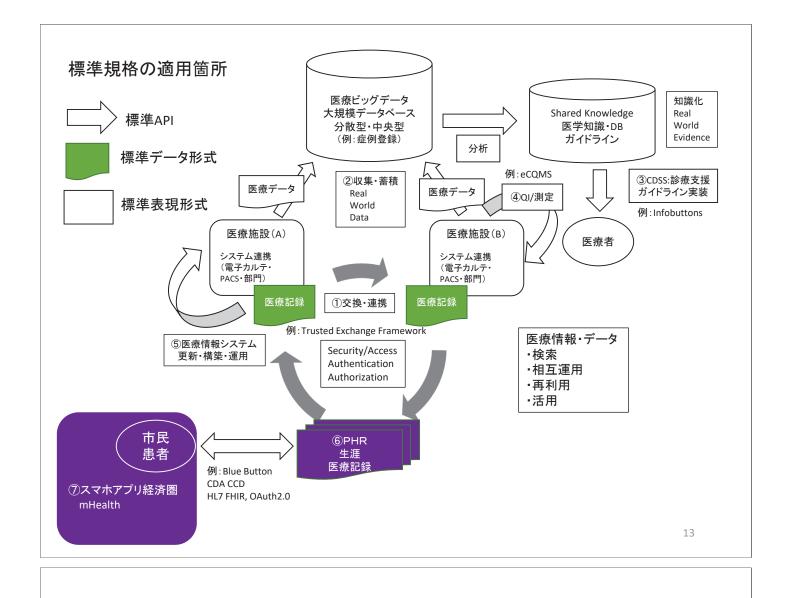


標準規格の適用箇所: ③診療ガイドライン・診療支援システム ④医療の質測定

臨床研究→診療ガイドライン→診療支援システム→質計測→集計



ONC: Health IT enabled Quality Improvement Ecosystemより改変



日本の医療情報システム製品の課題(1) 機能の飽和と費用対効果

(和製)電子カルテ製品は、 医学・医療に貢献しているのか?

1980年代

医事会計システム

 \downarrow

1990年代

•オーダリングシステム

 \downarrow

2000年代

- ・フルオーダリング(処置・注射)
- ・ペーパーレス

 \downarrow

現在:電子カルテ

 \downarrow

2020年代??

- ・全医療機関に電子カルテ
- ・全国ネットワーク化
- 全国データベース化



和製電子カルテの課題

- ワープロ・オーダリング・医事会計
- 機能が増えない (2000年代機能リスト以降)
- ・医療施設の視点で高額な費用
- •AIなど最新技術に対応できているか
 - ・ 煩雑な伝票のやりとり
- •医事会計業務
- =「業務上」の支援

本来の医療情報システムの役割 →「医学・医療」の課題・知見発見 (インサイト)

→「医学・医療」の課題解決支援

15

日本の医療情報システム製品の課題(2) IT技術が2周(20年)遅れ

日本の電子カルテ技術

1990年代

- クラシックWidows画面
- クライアント・サーバー型
- ・文字区切電文・ソケット通信
- •ID/PWD [know]

2000年代

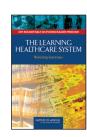
- ・ウェブブラウザ
- •SOA
- •XML•http通信
- IC [have]

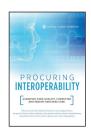
2010年代

- ・ウェブ・スマホアプリ
- Microservice アーキテクチャ
- •JSON•REST通信
- MultiModal, OAuth, OpenID

FHIRの基礎技術







「標準化」へのアプローチ(1)・・・「標準電子カルテ」は現実解か??

自動車産業・・・

国際標準

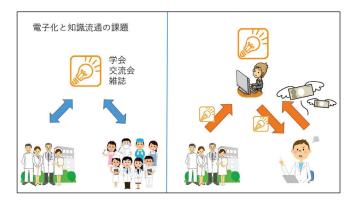
国内標準

業界標準

- ⇒「国民車」???
- •技術競争・経済発展: 多様性は重要
- ・IT・データサイエンス・AIは世界競争中
- 標準医事会計システム(標準レセコンエンジン) は可能か
- ・ベンダー各社は、仕様、設定、マスターデータ(本来は病院のもの)、を提示すべき

17

電子カルテベンダーによる情報公開の必要性・多様性の受容



仕様の公開 事例の公開 マスターデータの共有

- ・情報公開による参入障壁 レレ
- •Third Partyの参加による活性化
- ◆CONNECT is now available to all organizations as downloadable open source software. (2019/09終了)
- ◆OPEN Epic : > 20,000 interfaces
- ◆Cerner: Development platforms
- ◆NEJM: A 21st-Century Health IT System Creating a Real World Information Economy. 2017; 376:1905-1907

机上の規格(文書)、ではなく、データ・プログラム・テスト基盤を提供する必要性

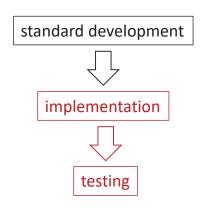
提供されているもの

- ・仕様文書、ガイド類
- ・テスト手順
- テストツール(ソフトウエア)
- ・テストデータ

成果物•••

標準•Open API

- 1) Patient Selection
- 2) Data Category Request
- 3) All Data Request



規格に沿ったソフトウェア開発に必要なもの

- ・サンプルデータ
- ・サンプルプログラム
- ・テストツール・テスト環境・テスト基盤

各ステークホルダー

(医療者・ベンダー・保険者・患者・市民・・・) 目的意識・利点・効用・理解度・運用スキル・人材・・・

19

「標準化」へのアプローチ(2)・・・・ オープン・実装支援・達成度評価・ステークホルダー

◆オープン

FHIR: Open Epic, Cerner SDK, Google, Apple, Microsoft CONNECT: 米国医療情報ネットワークの前身

◆実装支援

標準規格文書の提示 のみではなく サンプルプログラム、サンプルデータ (見本・手本) テスト基盤 (動作確認)

◆達成度評価

購入して終わり、ではない 機能+運用 = 何ができるようになったか (例:電子カルテへの薬剤リスト取り込み)

◆ステークホルダー

医療者・ベンダー・保険者・患者・市民・・・ 目的意識・利点・効用・理解度・運用スキル・人材・・・

「(医療情報)標準規格」との向き合い方についての考察

- ◆バズワード: FHIR, OMOP CDM, ・・・ 流行には敏感に・・・冷静に
- ◆技術は適材適所 一つで全てを解決する技術はない
- ◆次の技術・より優れた技術が生まれてくる 2030年代は何が主流・標準規格?
- ◆「医療」であることを忘れずに 安全第一 過去の蓄積(経験・知見)は重要